

第 47 回 火山検討会 議事録

1. 開催日時：2026 年 1 月 22 日（木）10 時 00 分～11 時 40 分

2. 開催場所：一般社団法人 日本電気協会 4 階 C 会議室（Web 併用会議）

3. 出席者：（順不同，敬称略）

出席委員：中田主査(防災科学技術研究所)，中村^隆副主査(大阪大学)，
中村^い(東京都市大学)，山元(産業技術総合研究所)，中山幹事(電源開発)，
岩田(元電源開発)，服部(電力中央研究所)，土志田(電力中央研究所)，
砂川(北海道電力)，清水(東北電力)，杉田(東京電力 HD)，金子(中部電力)，
島崎(北陸電力)，下村(関西電力)，船田(中国電力)，伊藤(四国電力)，
熊谷(九州電力)，天野(電源開発)，伊藤(日本原子力発電)，久保田(日本原燃)，
(計 20 名)

代理出席：(計 0 名)

欠席者：(計 0 名)

常時参加者：松田(電源開発)，南/熊谷(電気事業連合会)，
竹内(電力中央研究所) (計 4 名)

説明者：伝法谷(電源開発)，石川(四国電力)，松田/小林/岡田(関西電力) (計 5 名)

オブザーバ：西来(原子力規制庁) (計 1 名)

事務局：美濃(日本電気協会) (計 1 名)

4. 配付資料

- 47-1 第 46 回火山検討会議事録（案）
- 47-2 耐震設計分科会火山検討会委員名簿
- 47-3-1 JEAG4625 改定作業の状況報告等について
- 47-3-2 別紙 コメント一覧
- 47-4-1 JEAG4625（比較表）
- 47-4-2 参考資料 13 階段ダイヤグラム
- 47-4-3 参考資料 14 火山灰シミュレーション
- 47-4-参考 附属書 2-4 火山灰ハザード評価の例
- 47-5-1 2026 年度活動計画(案)
- 47-5-2 2026 年度各分野の規格策定活動(案)

(1) 配布資料，定足数の確認

事務局から，資料の確認の後，出席委員は代理出席者を含めて 19 名（確認時点）であり，分科会規約第 13 条（検討会）第 15 項に基づく，決議に際して求められる委員総数（20 名）の 3 分の 2 以上の出席であることが確認された。また，オブザーバ 1 名の紹介があり，分科会規約第 13 条（検討会）第 11 項に基づき，主査の承認を得た。その後，常時参加者 3 名（確認時点）と説明者 5 名の紹介があった。

(2) 主査選任

事務局から、主査選任について説明の後、岩田委員より中田主査に引き続き主査をお願いしたいとの推薦があり、分科会規約第13条（検討会）第15項に基づき挙手及びWebの挙手機能により決議の結果、出席委員の5分の4以上の賛成で承認された。主査選任のあいさつの後、分科会規約第13条（検討会）第2項に基づき、主査により副主査に中村^隆委員、幹事に中山委員が指名された。

(3) 前回議事録の確認、承認 【議題1】

事務局から、資料47-1に基づき、前回議事録案の紹介があった。正式議事録にするかについて、分科会規約第13条（検討会）第15項に基づき挙手及びWebの挙手機能により決議の結果、出席委員の5分の4以上の賛成で承認された。

(4) 新委員の紹介 【議題2】

事務局から、資料47-2に基づき、下記火山検討会委員の変更について紹介があった。なお新委員候補については分科会規約第13条（検討会）第4項に基づき、次回耐震設計分科会で委員として承認される予定である。

- ・新委員候補 松田 氏（電源開発）

(5) JEAG4625 改定作業の状況報告等 【議題3】

岩田委員より、資料47-3シリーズに基づき、JEAG4625改定作業の状況報告等について説明があった。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 概要の①について、過去の審査実績を含めて網羅的に確認して、改訂が必要な部分を洗い出しているというような説明だと思うが、具体的にはどのような方針で改訂箇所の洗い出しを行ったのかを示す必要があるのではないか。
→ 改訂箇所の洗い出しは、全電力に審査資料とJEAG記載内容の比較確認を実施していただいたデータを基に実施した。資料はまとめているところであり、次回の検討会でお示しする。

(6) JEAG4625 改定案 【議題4】

中山幹事、伝法谷説明者、天野委員より、資料47-4シリーズに基づき、指針改定案について説明があった。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 資料47-4-1のP19のモース硬度5というのは、シラス（入戸火砕流）に対して使っているものであり、また、砂の主成分の石英、長石類、雲母類とあるがかなり特殊な火山灰であるため、これを一般的なものとして示すのは誤解を招くのではないかと。モース硬度の数値を記載しなくても、火山灰が入り込むことによる設備の摩耗に対する考慮事項として記載すればよいのではないかと。

- モース硬度の数値は、審査実績の中にも出てきており、通常運転で設備に混入する砂の硬度が7であることから、硬度5の火山灰でも問題ないという旨で記載しているもの。誤解を与えないような記載に見直しを行う。
- ・ プレフィルタは、審査の過程で必要となったものか。プレフィルタを使わなければいけないのであれば、参考情報としての紹介にとどめるのではなく、積極的に使用する方向で記載すべきではないか。
 - 審査では、通常の火山灰ではなく高濃度火山灰への対応を問われており、プレフィルタはその対応として使うものである。PWRやBWR、地域によって火山灰対策が異なることから、積極的に使用することとはしていない。給気口の幅を広げることも有効である。
- ・ (資料47-4-1のP13を例とした意見) 審査実績反映によりクラス3施設を反映するとともに、表現の適正化としてかなりの部分が見直されているが、記載を見直すのであれば、その趣旨が分かるように整理し、検討会で議論ができるようにしてほしい。(審査実績としてクラス3施設を反映した、というだけではなぜそのような審査実績となったのか説明が不足しており、議論ができない。)
 - 資料は作業会で作成中(参考投影)であり、整理してから説明する。
- ・ 資料47-4-2のP2に密度の単位として「g/cm³」とあるが、現在は「kg/m³」である。また、マグマの密度として2.5とあるが、マグマの種類(玄武岩、流紋岩等)によって異なるため範囲(例:2.2~2.5)で示すべき。
 - 記載を見直す。

(7) 2026年度活動計画【議題5】

中山幹事より、資料47-5シリーズに基づき、2026年度の活動計画(案)および各分野の規格策定活動(案)について説明があった。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 特になし

○ 特に異論がなかったため、2026年度の活動計画(案)および各分野の規格策定活動(案)として総括検討会に上程することについて、分科会規約第13条(検討会)第15項に基づき、挙手及びWebの挙手機能により決議の結果、出席委員の5分の4以上の賛成で承認された。

(8) その他

次回火山検討会は、別途日時を設定して事務局より連絡することにする。

以 上